

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372700940		
法人名	医療法人社団大徳会		
事業所名	大阿蘇病院 グループホーム さくら苑1号館		
所在地	阿蘇市一の宮町宮地5863-1		
自己評価作成日	令和3年2月20日	評価結果市町村受理日	令和3年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一隅をテラス私たちは人々に灯火と明りと輝きをもたらします」の理念のもと入所者様が安心して過ごせるように心掛けている。当施設は病院併設のグループホームのため、病院との365日24時間の密な連携があり、既往歴があっても安心して入所できる。また、院内には様々な職種の職員がいるため何かあればすぐ相談できる環境にあり、入所者様を皆で支えている。広い敷地では四季折々の木々や植物、景色を楽しむことができる。静かなゆっくりとした雰囲気の中で個別ケアに重視したケアを提供している。職員も介護福祉士、看護師、ケアマネジャー等の有資格者がいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

阿蘇の山々が入居者の郷愁や会話として生かされ、各ユニットともに103歳を最高齢に重度化傾向にある中でユニット同士が協力し合い、コロナ禍にあっても入居者の生活は普段と変わらず、同じルーティンでの和やかな日常は、10年以上長く勤務する各管理者のもと、全職員が入居者視点でのケアに徹してきた賜物である。入居者の笑顔を引き出す等職員の根拠あるケア(毎日の表情やいつもとの違いを日々観察し、したいことの見極め等)や自然体での関わりの深さが、入居歴の長さ等に表われている。隣接する母体病院との連携した取り組みは、入居者や家族及び職員の安心感として生かされ、大型台風接近に伴う早めの避難(病院へ)や、新型コロナウイルス予防対策の徹底とともに、食備蓄を増やす等危機意識を高めたホームである。これまで築き上げてきた地域との関係性もこの一年希薄にはなりつつあるが、住民からも優しく見守られており、収束後の活動に大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一隅を照らす」を基本理念に掲げ週1回の朝礼で唱和し理念を意識してご利用者様主体の介護サービスを提供するように心がけている。また月目標にて理念にそった目標を決めケアへ反映させている。	開設時からの理念である「一隅を照らす」をもとに、基本理念として具現化し、月目標として《厳しいときこそ気配りや目配りのケアの実践、思いやりや明日へつなく今日のケア》等のスローガンを掲げ、意識強化を図っている。また、コロナ禍であろうとも入居者の生活にさほど影響もなく、普段の生活に、職員個々が感染対策を徹底していることが表われている。各ユニットともに最高齢103歳という現状にも、穏やかに過される姿に職員のケアの確かさであり、“その人らしい生活が生涯おくれますように真心を込めて…”とする基本理念がまさに実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さんより地域の行事の声かけをしていただき参加している。除草作業やEM菌作りの参加などで交流し地域と繋がっている。またボランティアをしていただける方等を面会や知り合いの方を通して声かけをおこなっている。	地域との交流は難しい現状にはあるが、広報誌を持ち届け入居者の様子を確認される近隣住民等地区の一員として大事にされている。地区に出かけない分、様子を気にされる声も挙がる等これまで築き上げた地域との関係性は確かなものである。一方で、今年はコロナ感染状況を見ながら、高校生の実習を受入れる等福祉の人材確保や地域への貢献を視野に運営している。	コロナ禍の中で、近隣住民から優しく見守られているホームで有り、収束後にはまた、これまで通りのつきあいを再開いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へ地域の方にも参加していただき施設や認知症の方への理解を深めていただけるよう話し合いを行っている。地域の方へと地域密着サービスを知っていただくため交流会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回執り行いその中でサービス内容や行事、取り組みの報告などを行っている。多方面より意見や要望を聞きサービスの質の向上やケアの内容へ反映させている。	今年度の運営推進会議はコロナ感染症の拡大の有無により開催を検討している。開催中止時により5月には運営推進会議の規程を添付し、この会議の意義をあらためて啓発している。ホームの現状の他、新型コロナウイルス対策や災害対策等の報告書、及びさくら新聞等を送付し、現状を発信している。	定期的な情報発信はホームの啓発の一環及び行政や地域委員への情報源として生かされている。参加委員の方々からの意見等を収集されるよう検討いただき、出された意見等をサービスに反映されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加していただき運営上の問題や情報の交換などを行い反映させている。また市役所担当の方とは密に連携を図り協力体制を築いている。	運営推進会議開催に向けた行政担当者との相談や、不明な点等は直接出向き、行政からも問い合わせがある等頃までの関わりの中で何事も相談できる関係性にある。市の補助を受けた見守りセンサーの設置や、成年後見制度、福祉支援等入居者が関わる各担当部署と連携、協力しながら入居者を支えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を作り病院との月1回の合同委員会で情報交換しスタッフへと報告周知を行うようにしている外へ出ようとされる方へも施錠しないケアを当たり前のケアとしスタッフで共有して介護を行っている。	母体病院での勉強会や資料によるホーム内研修、身体拘束廃止委員会による事例検討等により意識を強化させ、全員が拘束の弊害を正しく認識している。玄関等施錠も無く、自由な環境にあり、家に帰っても「早く帰らない」とホームを家として認識される入居者も多いようである。転倒リスクの高い入居者には家族と同意を交わし、人感センサーを付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢虐待防止法関連法について資料をまとめいつでも見られるよう回覧している。またスタッフの虐待を防止するために日頃のケアに注意し見逃しが無い様に努め防止を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	院内研修・外部研修へと参加し法制度や内容などの把握・知識の向上に努め職員・御家族へ周知できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	年に6回執り行いその中でサービス内容や行事、取り組みの報告などを行っている。多方面より意見や要望を聞きサービスの質の向上やケアの内容へ反映させている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会やご面会時などにおいてご意見・ご要望を言えるような環境作りに努めている。そこを基に関連職と連携及び職員会議を行ない対応を進めている。	職員のケアの振り返りやケア向上を目指し、家族への満足度アンケートを行い、全職員で共有しており、家族からの感謝の言葉が職員のモチベーションとして生かされている。また、窓越し面会時や電話による要望等の聞き取りの他、運営推進会議の資料及びさくら新聞と共に担当職員による写真付きの報告書の送付が家族への発信源として生かされ、長い入居歴に家族との良好な関係性が築かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は職員会議やミーティングなどで聴き取り行ない話し合い後決定して意欲の向上やサービスの質の確保に努めている。	全職員での集まりは難しい状況にあり、朝の申し送りを活用し職員との意見交換を行っている。年2回の評価表をもとにした面接による個々の困り事や要望、勤務体制等を聞き取りし、ユニット同士の管理者、及び勤務体制等連携している。また、申し送りノートを紹介した意見交換として、まずは申し送りノートを見てケアに入ることとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施し職員の実績・目標設定・相談等話し合いを行っている。また資格取得のためのアドバイスや意欲向上のためのアドバイスなどおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や能力に応じ学びの機会を作り1人ひとりの力量把握・スキルアップのための内外研修への参加などで質の向上を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着連絡協議会・他施設見学や研修で交流を図り情報交換しあい事業者同士の質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の会話とケアの中で要望を聞きご家族にも面会時や家族会などで質問や要望を聞き信頼関係を築いていくよう取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して生活が送れるよう事前にご本人様の普段のご様子やご家族の想いや気持ちを聞き受け止め信頼関係が築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族・関係機関と情報を共有し医師・看護師・施設代表・管理者・ケアマネでその方にあつた支援を話し合うことでその時に必要なサービスを見極め提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でご本人様がができる・楽しめる活動を職員も一緒に行うことで一方的な関係ではなく生活の一部になるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会時などに現状の報告などの情報を交換・共有することでご本人様とご家族の絆が途切れないよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が大切にされてきた親戚や、友人、知人との会話の中で以前の状況を知ることで長年の関係が途切れないよう努めている	家族による自宅への帰宅を叶えた方や、誕生にまでには髪を染めることを目標として2ヶ月毎に美容室に通う方、同じ隣保班の方が広報誌を持参してくださる等これまでの関係が継続されている。毎月1週間程度家族の帰省に合わせて自宅で過される等家族の協力も得ている。また、毎日朝日新聞に目を通す等慣習の継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々楽しい生活を送れるように他ユニットとの交流も大切にし親睦ができるよう孤立しないよう間に入り共に楽しく過ごせる環境作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過フォローし、相談や支援に努めている	退所後も面会を行ったりご利用者様・ご家族様と接する機会には相談やアドバイスなどを行ない継続した関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様・ご家族様の要望や職員の気付きはカンファレンスを開き現状にあった支援を考え情報を共有し実行している。傾聴と観察を心がけご利用者様本位の支援に努めている。	家族にホームでの生活の希望を聞き取りする他、超高齢化してもこだわりを持ち、こうしてほしいと声にされたり、自分で伝えることが難しい方や意思表示困難等にはこれまでの長い関わりの中で表情や言動等により推察し本人の思いに繋げている。また、無理せず過していただきたいとして、スキンシップによる毎日に表情や行動を観察し、本人のしたいことを見極めたり、耳が遠い方には筆談での会話により思いを引き出しケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでに得たjy情報をスタッフで共有し新たな情報を常に追求しよりご本人様らしい生活が提供できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックを行ない異変時には母体病院と連携し対応している。また表情や言動に留意し穏やかに生活ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様・ご家族様の要望や必要な支援をスタッフ間で共有している。担当スタッフが毎月モニタリングを行ないケアマネが評価しケアプランが現状に即しているか検討し支援へと反映させている。	毎月のモニタリング及び半年毎のアセスメントにより継続可否を見極め、一部変更が必要であれば見直している。担当職員とケアマネジャーが連携し、コロナ禍の中、家族と会うことが難しく、まず計画を郵送し内容を確認してもらい同意を得ている。介護5という状況に、安心した生活に向け健康管理の徹底による異常の早期発見や、楽しみの時間を作る等状況を的確に把握したプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日を通して日中・夜間で記録を行ない申し送りで情報を共有し途切れることの無いようにしご利用者様1人ひとりの工夫した支援に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院に隣接しているため医療面・栄養面などを相談しご利用者様1人ひとりに合わせた支援ができるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域清掃に積極的に参加をし地域住民の方々と関係作りに努めている。また2ヶ月に1回の推進会議を開き区長さん・民生委員さんに参加していただき地域資源の把握・活用にご協力いただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月母体病院の医師の受診で検診を行ないご利用者様の体調維持管理に努めている。また入苑前よりかかりつけ医があれば受診ができるよう支援している。	隣接する母体病院をかかりつけ医とする方は毎月定期受診に出かけ、自宅近くにあるかかりつけ医を継続する入居者、専門病院への受診は、家族や本人の希望により支援している。職員は朝・夕、入居者の状況を報告するとともに、普段との違いにはその都度報告し、夜勤帯の異変にもすぐに駆けつけてもらえる体勢が整っている。また、病棟看護師に相談できる事など、法人全体の連携が入居者・家族、及び職員の安心に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝・夕の申し送りを毎日行ない体調変化や急変時はその都度報告をし指示をもらっている。また気付いたことや気になることあれば看護師へ相談を行っている。夜間の急変時の対応もマニュアル化し対処している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時には情報を書面及び口答にて申し送りを行ない情報交換を行っている。入院時はこまめに面会に行き情報交換したりご利用者様とコミュニケーションを図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期になった場合は母体病院と連携しご家族様と話し合いその人らしい終末期となるように支援している。	入居時に重度化や終末期の指針に基づき、家族へ説明し同意書を交わしている。入居者の心身の状況に応じ、段階に応じて話し合い、母体病院の協力により本人や家族の望まれる最良の支援に取り組むとしており、家族もさくら苑での最終章を望まれるケースも多い。ホームで普段と変わらない生活を支援しながら、医療中心になると母体である病院へ入院されるケースも多く病院と連携しながら入居者を支えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変や事故発生時には全職員が対応できるよう母体病院と共にマニュアルを作成しており緊急時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した訓練を実施しスムーズに避難ができるようにしている。また災害時は母体病院へ緊急避難行こうようにしており法人全体での協力体制を築いている。	火災想定訓練の実施及び今年度は大型台風接近に伴い、法人のバックアップを受け全入居者が早めに避難している。この事例は、法人の協力や、物品の移動等防災マニュアルに沿った行動及び避難体制の再確認として生かされている。コロナ禍の中にあり、食事が作れなくなるのではとの思いから、用具や食備蓄を増やす等有事に対する危機意識を高くして臨んでいる。	昨今の自然災害は甚大な被害をもたらす等計り知れないものとなっている。今後も、法人のみならず地域も含めた訓練に着手されることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや介助をする上で利用者に寄り添い、一人一人尊重しながら、言葉かけに気をつけてスタッフ全員で利用者の誇りやプライバシー確保について話し合い対応している	職員は入居者の思いを尊重し、したいように支援することをモットーとしている。カンファレンスで意見を出し合い、入居者にとって良かれと思ったらひとまずやってみて、あらためて検討するとしたケア姿勢のもと行動している。呼称は苗字や下の名前で対応し、入居者に分かりやすく、反応のある呼び方としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で伝えることのできないご利用者様に対して日々の表様や行動・反応を注意深く観察しキャッチし好みや希望を把握し自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様をよく観察し希望を見出し楽しく参加できることをやっていたくよう努めている。集団でのレクリエーションだけでなく個別的なケアを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を聞きながらおしゃれができるよう環境を整えご利用者様に合わせた支援をしている。2ヶ月に1回1度の美容師の訪問にて散髪行ないお化粧品もしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや口腔体操などできる範囲でのことを楽しみながら行っている。ご利用者様個人に合わせた食事形態で提供しスタッフも一緒に食事をし楽しい雰囲気作りに努めている。	法人の管理栄養士の献立に沿ってホームで調理している。朝食は各ユニットで調理しているが、昼・夕食は2号館で全員の食事を準備している。入居者毎に食形態も様々で有り、とろみの加減の違い等に各ユニットで用意し、簡単な作業(玉ネギの皮むき等)で入居者も関わり、103歳の超高齢化にして常食を自力摂取される方もおられる。正月のおせちや雛祭りにはひなあられ等工夫しながら行事や季節に合わせ提供している。	入居者は手作りの料理を楽しみにされており、今後も両ユニットで協力しながらの美味しい食事を継続していきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立作成とご本人様にあつたカロリーや栄養・塩分に配慮した食事の提供をしている。食事・水分のチェック表を使用し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけを行ない、支援している。義歯は就寝前に毎日お預かりし洗浄を行っている。協力医師にて義歯調整や口腔ケア指導行ない1人ひとりに合わせたケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインを出される方にはその都度誘導を行ない個人に合わせた声かけで失敗やおむつの使用頻度を減らすようにしている。また排泄チェック表を用いて1人ひとりの排泄パターンの把握を行っている。	排泄チェックにより個別に間隔を見極め、声掛けや誘導によりトイレでの排泄を支援している。尿意のある方については見守り、その日の内容は夜勤者によってまとめられ、日々活用されている。排泄用品の変更にカンファレンスで検討し、病状や身体状況により最適なものを選択している。ベッド中心の入居者には夜間の時間的パット交換及び体位交換により清潔保持並びに褥瘡予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士により献立作成。水分チェック表を用いて水分量の少ない方にはこまめに水分を促している。腹部マッサージや体操など行っている。また主治医と相談をし緩下剤のコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	個人の体調や気分に応じて家庭的雰囲気やゆつくりと入浴していただけるよう支援している。週3回のペースで実施し入浴できない場合は足浴や清拭にて対応している。	基本的に1日置きの入浴を支援している。1号館及び2号館では身体面での違いが見られ、1号館ではベッド中心になった方でもシャワー浴や足浴、時には湯船で温まってもらう等個別にゆつくり対応している。2号館では職員の見守りのもと最高齢の入居者が手の届く所を自分で洗身される等もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は安心して眠れるようにご本人様が自宅で使用されていたものを持ち込んでいただいている。体調に合わせて臥床時間を設けソファでもくつろげるようにクッションやひざ掛けを用意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はスタッフが確認・把握できるようにカーデックスにはさむようにしている。その都度に更新し変更や臨時薬などがあつた際には口答申し送りとし送りノート記載で情報を共有している。薬はスタッフ2名でチェックしセットしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事(誕生会や季節の行事)を計画し実行している。個人の習慣を大切に楽しみが増えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力を得て通院や自宅・懐かしの場所へ外出していただいている。また施設内行事を計画しつつ見学や紅葉見学などに出かけている。地域の行事(どんどやなど)にも参加させていただき地域との交流ができるよう支援している。	外出が制限された中で、職員は普段以上に寄り添い、室内活動を充実し、敬老会での出し物等工夫している。法人敷地内は広大で季節毎に桜や紅葉見学、これまでは保育園児との交流も行われていた。ホーム周辺への散歩や地藏様参り等を外出の機会としている。	これまでは保育園児との交流等も行われていたが、コロナ禍の中では難しい状況にある。今後も、ホーム周辺の散歩等身近な外出によりメリハリのある日常とされることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ちされるご利用者様には本人の状況により所持金がいくらか写真に撮り記録に残している。またきちんと入っているか確認いつでも使用できるようにしている。預かり金はご家族様と相談合意を得て行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があれば取次ぎ必要あればこちらから連絡をしている。電話や手紙のやり取りができるよう支援している。連絡あつた場合は家族に報告し手紙などはご本人様に読んだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の家族の写真や絵画・作品を飾ったりテーブルには季節感を取り入れご利用者様が生けられた花を飾る工夫をしている。	阿蘇に積もる雪を見ながら郷愁にふけり、高岳に雲がかかれば「洗濯物を取り込んでもよかね…」と入居者の声が聞かれる等阿蘇の山々を望める環境にあるホームは、パネルにより感染対策としたり、食卓の位置や動線等状況に応じたレイアウトとしている。入居者の生けられた花や壁面飾りなど季節感を醸しだし、季節柄ひな人形が飾られている。特に、今年度は感染防止に換気や消毒を徹底し、共有空間の衛生管理に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室には慣れ親しんだ家具やテレビ等を置いてあり常に1人になれる空間を設けている。またホールでは他の利用者様とソファーに座り一緒にすごせる場所作りも行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活していただくために今まで愛用してきた家具・洋服・大切な品物など家より持参していただき居心地良く生活できる環境作りをしている。	入居に際し、使いなれた品物の必要性を説明し、そのまま持ち込んでいただくよう伝えている。筆筒や布団(綿)、テレビ等が持ち込まれた居室や入居者によってはベッドを両サイドから介助できるよう配置場所を決めたり、ベッド柵等に安全対策を施す等入居者個々の状況による様々な工夫を行い、居心地よく過ごす環境を整備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や施設内に手すりなど配置することで独歩の方・バギー車の方や歩行器の方また車椅子の方が移動や立位などが安全に行えるような環境作りを行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372700940		
法人名	医療法人社団大徳会		
事業所名	大阿蘇病院グループホームさくら苑 2号館		
所在地	阿蘇市一の宮町宮地5857-7		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一隅をテラス私たちは人々に灯火と明りと輝きをもたらします」の理念のもと入所者様が安心して過ごせるように心掛けている。当施設は病院併設のグループホームのため、病院との365日24時間の密な連携があり、既往歴があっても安心して入所できる。また、院内には様々な職種の職員がいるため何かあればすぐ相談できる環境にあり、入所者様を皆で支えている。広い敷地では四季折々の木々や植物、景色を楽しむことができる。静かなゆっくりとした雰囲気の中で個別ケアに重視したケアを提供している。職員も介護福祉士、看護師、ケアマネジャー等の有資格者がいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一隅を照らす」を基本理念とし、朝礼で唱和することで理念の意識付けを再確認し、その人らしい生活を送れるように心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス流行で、最近では地域の方との交流が出来ていないが、それ以前は地域の行事(どんどや等)に呼んでもらっていた。また、地域の方が、月に1度広報を配達、ご利用者の方を気にかけていただき、入所しても地域の情報を伝えてもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議に地域の方に参加して頂き、入所者の事例報告や、現状報告で認知症への理解を深めて頂き、意見交換会では地区の高齢者の話なども聴き、情報交換を行っている。(現在は資料配布のみ行っている。)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年6回行っている。活動、サービス内容、取り組み等を報告し、率直な意見、提案、要望を受け、サービスの質の向上に努めている。(現在はコロナ感染流行の為、資料配布のみ)		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、運営や現場の実績などを伝える機会を設けている。また、何か分からないことがあれば、すぐに連絡を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の設置。院内研修や、苑での研修を行い、利用者様が安心して自分の思うように生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内研修や、苑での研修を行い、職員の虐待への意識、関心の向上に努め、苑内での虐待や、拘束が見過ごされることがないように防止の徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これらの事についての情報を職員へも研修などで知ってもらっている。また、実際に成年後見制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はが家族、利用者様へ分かりやすい言葉を選んで説明している。その都度疑問点や不安がないか確認し契約を進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族とのコミュニケーションをとり、お互いに話しやすい環境を作るように心がけている。何気ない会話の中でご家族の意見や要望を尋ね、運営に繋げるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員が意見を言いやすいような雰囲気作りを心掛け、コミュニケーションを取りながら意見提案を聴く機会を多くとるようにし、反映できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施。それを基に職員の個々の能力、努力、実績について職員がやりがいをもって仕事ができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のケアの実際と力量を把握しながら法人内外の研修に参加し質の向上に努めるようにしている。(今年度は感染流行の為なかなかできていない。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着連絡会議や、合同研修会に参加し、他施設の方との交流、情報交換し、質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には不安が無いように安心できるような声掛け、ケアに努めている。会話をする機会を特に多く持ち、安心して暮らせるような職員との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にはご家族と密に連絡、話をし、不安なこと、要望を気軽に聞けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族から情報や、希望を聞き取り、関係機関と連携を取りながら本人、家族が望む支援が出来るよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	苑での生活を通し、本人が出来る事、好まれることを把握し、一緒に行い、一方的な押し付けにならないよう、本人に寄り添ったケアを行うよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の状況報告を行うと同時に、家族の思いも聴きながら、本人と、家族の間に入り、それぞれの思いを伝える役割になり家族のきずなを途絶えさせないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や、家族、面会に来られた友人の方との会話で昔大切にしている事や、場所習慣を聞き取り、情報を得てその関係や習慣が途切れないように支援することを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活が楽しく穏やかに過ごせるように職員が間に入りながら利用者間の関係構築が出来る環境作りに努めている。また、他ユニットの交流を大切に、多くの関係作りが出来るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も面会で本人の様子を伺いに行ったり、家族の方が退所後も遊びに来られ話を伺ったりしている。その際、相談があった時はアドバイスや関係機関の紹介をするなど継続した関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望や思いを聴きカンファレンスを行い職員全員で考え情報を共有し、より本人の支援が出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族から情報や、希望を聞き取り、関係機関と連携を取りながら本人、家族が望む支援が出来るよう支援している。家族、関係機関より話を伺い、今までの生活スタイルの把握を行っている。また、傾聴、様子観察を通して新たな情報を見つけ出しより本人らしい生活が出来るよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック、行動・様子観察を行い一人一人の日常生活の把握に努めている。何か特変があった時、いつもと違う様子などこまめに気付いたことは職員間で情報を共有して少しの変化にも気づき、対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な支援についての情報や、方法など職員間で共有している。担当スタッフによるモニタリングを行い、評価、プランの見直しを行い本人らしく生活できるようにプランへ反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日1日を通して様子観察、行動について記録し、申し送りにて全職員が分かるようにし、情報を共有している。一人一人に合わせた支援が出来るよう密に情報を共有するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院に隣接しているため、その時のニーズに合わせて医師、看護師、栄養士などの専門職に相談を行い、問題事について会議を行い、解決方法を一緒に考えてもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が広報を持って来られたり、定期的に顔を見に来られている。今後もこの関係が途切れないように支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の病院受診時、主治医、外来看護師へ状態状況を報告している。受診結果で何か変更あれば家族への報告も行っている。体調変化時は病院への報告、相談している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の情報や気になること、気付いたことはスタッフかんで相談している。また、相談されたり報告を受けたこともあり、その都度出来る範囲で対応している。必要時は病院へ報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院された場合、口頭、書面により申し送りをを行い情報交換を行っている。病棟から、入所者に関して分からないことがあれば、問い合わせがあるのでその都度対応し情報提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重度化や、終末期の介護看護はない。最期をどう迎えるか非常に難しい問題となる。そのような時が来た時はその時その時で病院、家族との話し合いの機会を設け、本人、家族がどのようにしたいのかの思いをしっかりと聞き、受け止め事業所で出来る事も話し、一番ベストな支援ができるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の緊急、急変、事故発生時は母体病院と作成したマニュアルを活用し全職員が対応できるようにしている。また、日頃より、申し送りなどで、急変時の病院連絡の方法、対応を話している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、災害訓練は母体病院と定期的に(1年に2回)行っている。病院内にあるため、病院、系列施設との協力体制はできているが、地域の方を交えての訓練は実現できていない。大雨、台風など予測がつくものは前もって病院の協力を得て避難を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中で一人一人の尊重、プライバシーを損ねないようなケア、声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で自分の思いや、気持ちを伝えることができない入居者の方が多いので表情や、行動、反応、簡単な質問などで本人自己決定をできるだけ自分で出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合に当てはめず、一人一人の入所者の方が持っているペースや望まれることを日々の状態や、体調に合わせ支援できるようにしている。計算問題がお好きな方、家事手伝いをされる方、歩行練習したい方などその時々で本人のしたいことをしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をされる方、美容室に行かれる方が継続してできるように家族の協力も得ながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者の方にとって食事が一番の楽しみなので、美味しく食事できるようにその人に合った食事形態や、口腔内の動きが悪い方への嚥下体操などを行い食事が楽しめるように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は病院管理栄養士が作成しカロリー計算しており、バランスの取れた食事内容になっている。食事量、水分摂取量もチェック表にて分かるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアでは自分で出来ない方へ職員での確認、仕上げ磨きなど行っている。定期的な歯科往診も行い、その方に合ったアドバイス、口腔ケア用品を使い分けながらケアしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声掛け誘導、本人訴え時にその都度誘導している。失敗があったからと安易にリハパンにはせず、カンファレンスを行い布パンツで過ごしてもらえよう意見を出し合っている。現在、9名中、3名の方が布パンツである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養バランスのとれた献立作り、水分チェックを用いてこまめに飲水を行っている。薬に頼らない排便を目指している。以前はとんぷくで緩下剤追加し、排便コントロールしていたが、病院Drの排便についてのアドバイス、考え方を話していただき、現在では頓服薬を服用せず、排便コントロールが出来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回のペースで入浴を行っている。その日の体調に合わせてシャワー浴、清拭、足浴など行っている。浴槽につかれる方には安全に好きなように入ってもらっている。入りたくない等、言われる場合は尊重し無理強いはしていない。一人ずつの入浴の為、職員と世間話をしながら楽しくゆっくり入浴してもらえよう心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は本人が自宅で使われていたものを持ち込んでいただき、日中は、就寝時間は本人が休みたいときに休んでもらっている。また、体調に合わせて臥床時間の声掛け行っている。部屋はさみしいと言われる方もいるので、ソファでゆっくりくつろげるよう、ひざかけ、クッションを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カーデックスに一人一人の服薬説明書を挟んでいるので、いつでも確認できるようにしている。受診時や、臨時薬があるたびに更新している。服薬時は、誤薬がないよう、職員とWチェックをして間違いがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花を行っていたが、感染症流行の為出来ていないが季節の行事への参加をしていただき楽しんでもらっている。コロナ禍の中で今年は出来なかった行事もあるので出来る事を今後も検討していきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩などは本人の希望で苑内外を行えているが、戸外への外出は現在、出来ていない。感染状況をみながら、少しずつ以前のように、買い物、美容室、自宅などへの支援が出来るようにしたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を手元に持ちたいと自分で思い、管理できる方が、現在、1名。以前は売店へ好きな食べ物を買いに行かれていたが現在はこちらから声かけするが、特に買いたい物はない。とのこと。今後も声をかけながら支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お知らせ端末でのテレビ電話、個人で携帯電話を持たれている方には好きな時にかけたり、かかってきたりして話をされている。苑での電話も希望があればいつでも電話を利用できるよう職員が間に入り支援している。手紙が書ける方はお礼の手紙など書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはその月に応じた壁面を作成。時には入所者の方にも手伝ってもらい作成している。季節に応じた飾りつけもして、目で楽しんでいただいている。室温、明るさ、音などにも気を付け、心地よく過ごして頂けるよう工夫している。現在は感染予防対策として2時間おきの換気を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では合う方合わない方色々なので入所間でトラブルにならないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人が使っていたもの、使い慣れた物を持ってきていただき、また、ご家族の面会時などゆっくり過ごせるような環境作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩いたり車イスで自走できるように廊下や手すりの前には物を置かないようにしている。トイレや、浴室には複数の手すりを設置。立位が自分でできるよう工夫をしている。		